

特別支援学校（知的障害）  
小学部1年 国語



**友達の表現方法の共有や教員とのやり取りから、読み聞かせの内容に対する理解を深め、ICTを活用して表現する。**

# 特別支援学校小学部第1学年 国語 「読んだことを表現してみよう」

## ■単元の目標

読み聞かせに注目し、知っている事物などを指差しで表現したり、筆記具を用いて書くことの楽しさを感じ、いろいろな筆記具で書いて表現したりして、読むことや書くことのよさを自らの生活に活かしていこうとする。

## ■単元の概要

スライドショーによる物語の読み聞かせを聞いて、児童に物語の面白さを感じてもらおうとともに、筆記具で書くことを通して、自分の考えや書くことの楽しさを表現する活動を行う。

## ■単元の指導計画（12時間）

### 第1小単元

「『どうぶつパーティー』の物語を知ろう」

- ・物語の読み聞かせを聞く。
- ・ウサギが訪れた動物のクイズに答える。

### 第2小単元

「パーティーの準備をしよう」

- ・物語の読み聞かせを聞く。
- ・動物の形のイラストに模様を描くなどして、服を着替えたことを表現する。
- ・服を着替えた動物たちをパーティー会場に集める。
- ・食べ物と動物を線でつなぎ、食べ物を届ける。

### 第3小単元

「パーティーの振り返りをしよう」

- ・これまでに表現した服を振り返り、その中から気に入ったものを一つ選んで、パーティー会場に集める。
- ・パーティーの様子を見て、振り返る。

## ■小単元の概要

スライドショーによる物語の読み聞かせを聞く。主人公のウサギが様々な動物の家を訪れる内容から、家の大きさ、色、動物の鳴き声などをヒントにして、その家に住んでいる動物について考える。

動物たちがパーティーを開こうとしているが、着ようとしていた服が汚れてしまっていることを知る。動物たちがきれいな服でパーティーに参加できるように、プレゼンテーション上の動物の形のイラストに、着替えた後の服の様子を表現する。それぞれの端末で表現したものを大型モニターで共有し、それぞれの服の良さについて触れる。その後、パーティーに持ち寄る食べ物を、鉛筆を使って線でつなぎ、食べ物を届ける活動を行う。

パーティーの準備が整ったことを確認し、パーティーの様子を見て振り返りを行う。

# ■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2小単元）

## ■ 指導上の工夫と ICTの利活用

### 【学習活動の場面】

前小単元の読み聞かせで考えた動物を振り返ったあと、動物たちの服が汚れてしまったことから、パーティーに参加するために動物たちが服を着替えたことを知り、「着替えた後の服」を自分なりに表現する。それぞれの児童が表現した「服を着替えた動物」を大型モニターに提示し、表現した服の様子を児童同士で共有する。

### 【子供の「深い学び」の姿】

教師は、物語の中の「服が汚れたこと」それにより「服を着替えたこと」の理解を促すために、大型モニターで、物語の内容を視覚的に提示した（写真①）。

Aは、視覚的な情報の提示と友達の表現の共有により、「服が汚れる」ということが、どのような状況になることかを理解できた。

第2小単元開始当初の、Aによる「着替えた後の服」の表現（写真②）

ICTを活用した学習を繰り返す中で、Aは「着替えた後の服」の状態への理解を促すための教師の発問に、次のように発言した。

教師「お洋服が汚れちゃったね。お洋服、どうしよう？」  
A「お洗濯！」

その後の「着替えた後の服」を表現する場面（写真③）では、Aは教師の発問に、次のように回答した。

教師「お洗濯をしたら、お洋服はどんな模様になるのかな？」  
A「お花！」

第2小単元内で学習を繰り返した後の、Aによる「着替えた後の服」の表現（写真④）



写真①



写真②



写真③



写真④

### 【当該指導での「深い学び」】

当初Aは、「汚れた服からパーティーに行くための服に着替える」という表現をする際、画面上の動物をただ塗りつぶすだけであった。大型モニターで物語の内容を視覚的に分かりやすく示したり、他の児童の表現を共有したりすることで、読み聞かせの中で「服が汚れた」ことから「服を洗濯する」ということ、洗濯をすることで元の服の模様が見えるということをつなげることができた。服に対するイメージの深まりと合わせて、物語の内容に対する理解が進んだ。

【活用したソフトや機能】 大型モニター、端末、Keynote、Padlet

### ① 知識同士をつなげて 質を高める。

\* 大型モニター上に、読み聞かせの内容を分かりやすく示した画像や、児童が表現したものを提示することで、知識をつなげて考え、質を高めることができるようにする。

例えば、「（服が）汚れる」「洗濯する」「きれいになる」といったことがどういうことであるのか、それらのことから他の児童がどのように表現したのか、ということを経験が視覚的な情報をもとにつなぎあわせて、深く考えられるようにする。

### ② 表現しやすくする

\* 試行錯誤をしながら表現することが容易にできるようにする。例えば、端末とタッチペンを活用することで、塗りつぶしていたものを何かの模様に替えたり、描いた模様を別の違う模様にかき換えたりすることが容易になるため、やり直すことを恐れずに、その時に自分が思ったこと、感じたことを表現しやすくしている。

# 学習指導要領や解説との関連

## 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第2章 各教科

### 第1節 (小学部) 第2款 (知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校) 第1 (国語科)

#### 2 各段階の目標及び内容 1段階 (2)内容

イ(ウ) ア いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。

(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。

Bア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。

Cイ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1)エ 2の各段階の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「**B書くこと**」に関する指導に配当する授業時数は、児童の運動の能力や手先の器用さなどを考慮し、適切に定めること。また、**書き表す内容や方法については、個に応じて適切に選択すること。**

オ 2の各段階の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「**C読むこと**」に関する指導に配当する授業時数は、児童の言語発達の状態を考慮し、適切に定めること。また、**身近な題材を中心に段階的に様々な題材や文章に触れる機会を設けること。**

(2)ウ (ア) **児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じ、興味・関心のある題材や生活に関連する身近な題材を中心に扱いながら、徐々に様々な種類や形式の文、文章に触れる機会を設けること。**その際、児童が自分の考えや気持ちを伝える活動を重視すること。

## 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第2内容の4 (環境の把握)

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること

**・いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること。**